

心理学的な支援と応用演習(学校・教育心理学)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	1・2年
	担当教員	中村 恵子	

■授業のテーマ

学校臨床問題の起因する背景と解決方法を探求する

■授業の目的

学校臨床での問題とその発生メカニズムを理解し、心理学的な理論を活用した問題解決方略を学ぶ。

■授業の到達目標

- ・学校臨床において生じる問題を説明できる。
- ・問題膠着の悪循環の構造を説明できる。
- ・学校不適応の子どもに対する支援の方法を説明できる。
- ・そのために必要な理論を援用できる。

■授業の概要

日本の学校臨床では、1998年以来年間約10万人の不登校が出現し、ニート・ひきこもりと連動する深刻な社会的問題が起きています。その対策としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職が創設されましたが、結果的に不登校は減少せず、増加の一途をたどっています。ところが、義務教育にホームスクーリングが認められる欧米とは異なり、登校を必須要件とする日本型の集団教育での対策や専門職の役割は十分に検討されず、いまなおそのガイドラインは策定されていません。

そこで、本授業では、日本の学校臨床で生じる問題とその背景について、子どもの立場と支援者の立場の両面から検討し、問題膠着にいたる悪循環の構造を明らかにします。子どもの問題について発達障害の観点から、支援チームの問題については組織心理学を用いて構造と関係の観点から読み解くことで、日本の教育制度に即したチーム支援のあり方や支援方略を探求します。

■研究の視点

- ・子ども自身の発達と適応上の問題
- ・支援チームの構造と関係性の問題
- ・問題の構造と支援方略の選択

■スクーリング事前課題（学修時間の目安：3～5時間）

指定のテキストを熟読してください。

■スクーリング授業計画（状況に応じてオンデマンドやリモートで実施します）

	授業の内容	授業の方法
1	日米の教育制度の比較と検討 スクールカウンセラーと教育相談 スクールサイコロジストと特別支援教育コーディネーター スクールソーシャルワーカー	対面(会場)
2	不登校の特徴と問題 不登校はどのように理解されてきたのか 学校恐怖症からチーム学校まで	対面(会場)

	授業の内容	授業の方法
3	不登校に対する支援方略の変遷 School phobia に対する精神分析から School refusal behavior に対する認知行動療法 (Kearney, 1997～) と世界の最前線	対面(会場)
4	学校適応の条件	対面(会場)
5	知的発達と発達障害	対面(会場)
6	仲間形成の発達と集団社会化理論 (Harris, 1998)	対面(会場)
7	集団社会化の促進技法	対面(会場)
8	学校環境への適応システム	対面(会場)
9	神経症を伴う不登校生徒への支援 ケースフォーミュレーションの作成	対面(会場)
10	いじめ学級崩壊への支援 ケースフォーミュレーションの作成	対面(会場)
11	疲弊する教師に対する支援者支援	対面(会場)
12	日本の教育制度におけるチーム支援と専門職の役割	対面(会場)

■レポート課題

スクーリング 事後課題	集団社会化療法をモチーフに、学校適応支援に求められる要因について論じなさい。
----------------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートは、以下の順序で記述し、最初に結論を述べてください。

- 1) 結論
- 2) 本論 結論に対する解説
- 3) 総括 支援システムを用いることの意義と効果

論文の価値は、論点の明瞭さにおかれます。直感による個人的な意見や感想を交えず、複数の文献からの根拠を示しながら結論を導くことを「論じる」といいます。この論理の客観性と明瞭性が論文の価値の決め手になるのです。

■評価の方法・基準

スクーリング時の参加度40%、プレゼンテーション20%、事後課題レポート40%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- * 1) 中村恵子著 2022 『別室登校法：学校と適応指導教室での不登校支援と集団社会化療法』 ナカニシヤ出版
- 2) 田上不二夫監修 中村恵子編著 2021 『学校カウンセリング：問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション』 ナカニシヤ出版
- 3) 中村恵子著 2023 『認知行動療法のストラテジー：行動修正法・行動形成法・認知行動療法・おまじない法』 ナカニシヤ出版
- 4) ハリス著 2017 『子育ての大誤解：重要なのは親じゃない（上下巻）』 ハヤカワ文庫